

2020年3月期 第3四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社

取締役

専務執行役員 CFO

2020年1月31日

Beyond
2020



5G Testing
Anritsu



東証第1部：6754
<https://www.anritsu.com>



Anritsu
envision:ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

I. 事業概要

II. 2020年3月期第3四半期 連結決算概要

III. 2020年3月期 通期業績予想（連結）

IV. 連結子会社の吸収合併（簡易合併・略式合併）

V. 5Gサービスのロードマップと
当社の取組について

（ノート部記載なし）

I. 事業概要



(セグメント別売上比率) 2019年3月期 実績(連結) : 997億円

T&M 68%			PQA 23%	その他 9%
モバイル 53%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 21%		

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 19%	アジア、パシフィック 33%	米州 32%	EMEA 16%
--------	----------------	--------	----------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

Anritsu envision : ensure

4

Financial Results FY2019 3Q
Copyright© ANRITSU

(セグメント別売上比率) 2020年3月期 (4月～12月)実績(連結)

T&M: 71%			PQA 21%	その他 8%
モバイル 55%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 19%		

(T&M事業 地域別売上比率) 2020年3月期(4月～12月)実績

日本 19%	アジア、パシフィック 44%	米州 24%	EMEA 13%
--------	----------------	--------	----------

Ⅱ - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

前年同期比増収、増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	739	826	87	12%
売上高	711	764	53	7%
営業利益	77	113	36	47%
税引前利益	79	112	33	43%
当期利益	63	83	20	33%
当期包括利益	65	79	14	22%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比12%増の826億円、売上高は前年同期比7%増の764億円となりました。営業利益は前年同期比47%増の113億円となりました。

当期利益は前年同期比33%増の83億円となりました。

Ⅱ - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&M：5G開発需要は順調

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	486	542	56	11%
	営業利益	65	99	34	53%
PQA	売上高	166	159	△7	△5%
	営業利益	10	7	△3	△35%
その他	売上高	59	64	5	8%
	営業利益	7	13	6	81%
調整額	営業利益	△6	△6	0	-
合計	売上高	711	764	53	7%
	営業利益	77	113	36	47%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

Anritsu envision : ensure

6

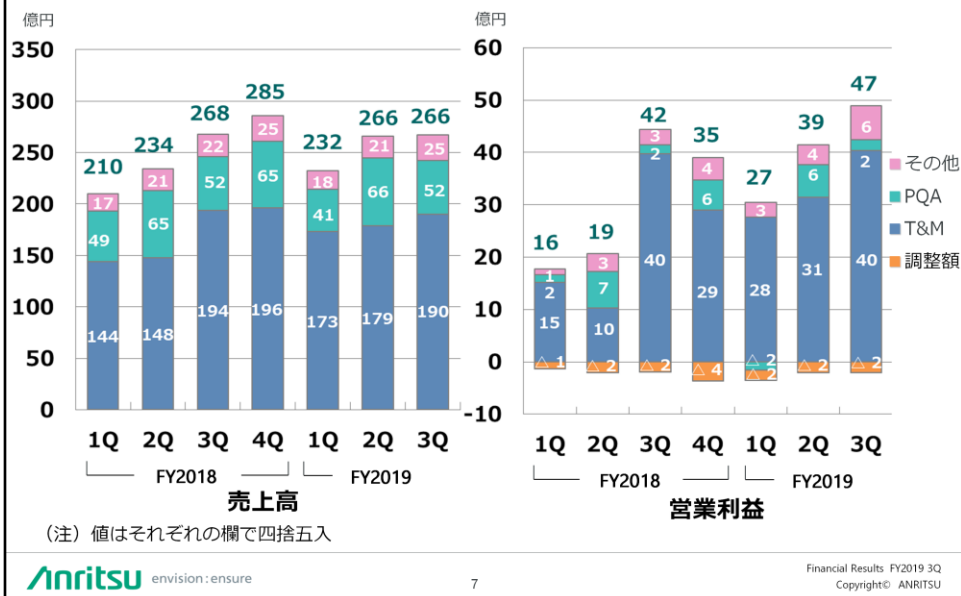
Financial Results FY2019 3Q
Copyright© ANRITSU

T&M事業において、5G開発需要は順調で、前年同期比で増収増益となり、売上高は11%増の542億円、営業利益は53%増の99億円(営業利益率18.3%)となりました。

PQA事業において、第3四半期の業績は昨年同期と同水準でしたが、第1四半期の不振を補うまでには至らず、前年同期比減収減益となり、売上高は7億円減の159億円、営業利益は、3億円減の7億円になりました。

Ⅱ - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

➡ 3 Q(10-12月)営業利益率：連結18%, T&M21%, PQA4%



第3四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結 47億円(営業利益率: 17.6%)

T&M 40億円(営業利益率: 21.2%)

PQA 2億円(営業利益率: 4.2%)

Ⅱ - 4. 事業別営業概況

セグメント			2020年3月期第3四半期（4月-12月）の状況	
➡ T&M：5G商用化スケジュールが順調に進展				
モバイル	LTE	LTE-Aの投資は抑制・縮小が続く		
	5G	5G開発の需要が順調に推移		
Network Infrastructure		5Gネットワークの整備が始まる		
アジア	5G商用化に向けた投資拡大			
米州	5Gサービスが開始。今後のエリア拡充に注視			
➡ PQA：国内・海外とも食品市場の品質保証、自動化、省力化の投資が堅調				

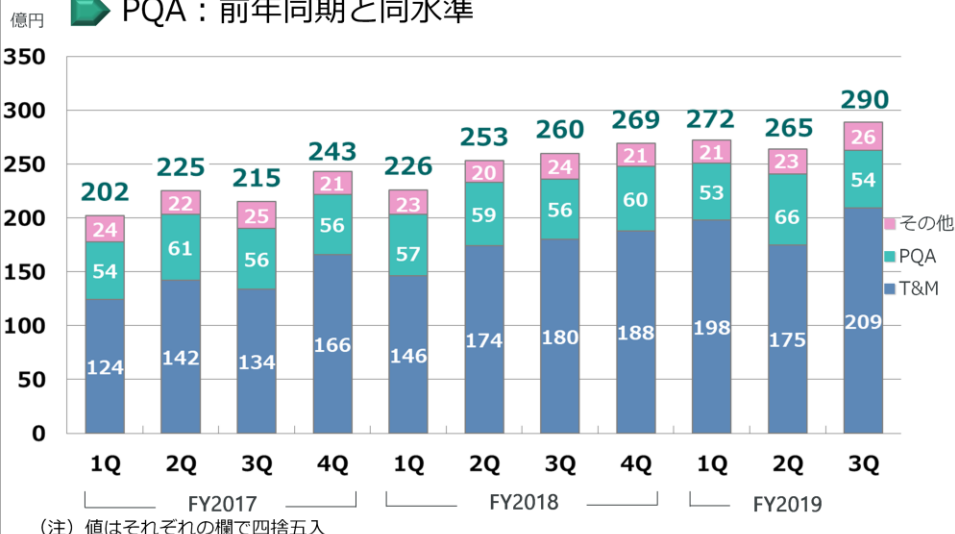
T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

Ⅱ - 5. 受注高推移

➡ T&M：前年同期比16%増

➡ PQA：前年同期と同水準



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2019 3Q
Copyright© ANRITSU

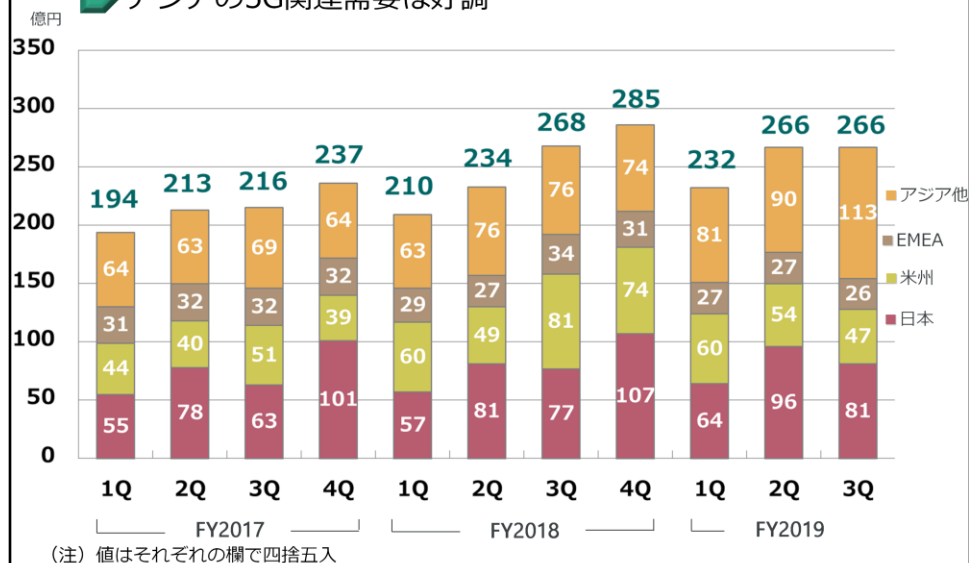
T&M事業の受注高は、5G開発関連需要を順調に獲得し、前年同期比29億円(16%)増の209億円となりました。

PQA事業の受注高は、前年同期と同水準の54億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体で287億円(前年同期比23%増)、T&M事業では205億円(同23%増)、PQA事業では61億円(同23%増)でした。

Ⅱ - 6. 地域別売上高推移

▶ アジアの5G関連需要は好調



Anritsu envision:ensure

10

Financial Results FY2019 3Q
Copyright© ANRITSU

(ノート部記載なし)

Ⅱ- 7. キャッシュフロー

➡営業CFマージン率11.8%

FY2019 3Q (累計)

- ①営業CF： 90億円
- ②投資CF： △ 21億円
- ③財務CF： △ 74億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 70億円

現金同等物期末残高

444億円

有利子負債残高

(リース負債を含む)

147億円

内訳

(単位：億円)

売上債権 20	←その他 4*	
減価償却 37		
税引前利益 112		
棚卸資産 △46	設備投資 △19	借入金返済 △35
税金 △32	↑ その他 △2	配当金 △34
	←仕入債務 △5	←その他 △7→
	営業CF 90	投資CF △21
		財務CF △74

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*その他の主な内容：前受金、預り金など

営業キャッシュフローは、90億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、21億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは70億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、74億円の資金支出となりました。主なものは、借入金返済35億円、配当金の支払い34億円(期末配当分1株13.5円および中間配当分1株11円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より7億円減少の444億円となりました。

Ⅲ -1. 2020年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 連結業績予想を上方修正

（単位：億円）

		2019/3期	2020/3期				
		前期実績	通期予想			前期比	
			4/25発表	10/30発表	今回	増減額	増減率(%)
売上高		997	1,020	1,030	1,050	53	5%
営業利益		112	100	115	155	43	38%
税引前利益		114	100	115	155	41	36%
当期利益		90	75	85	110	20	22%
T&M	売上高	682	690	700	730	48	7%
	営業利益	94	80	95	135	41	43%
PQA	売上高	231	245	245	235	4	2%
	営業利益	16	20	20	16	0	0%
その他	売上高	84	85	85	85	1	1%
	営業利益	11	9	9	13	2	14%
調整額		△ 9	△ 9	△ 9	△ 9	0	-

（参考）FY18 為替レート : 1米ドル111円、1ユーロ=128円
FY19 期初想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円
FY19 下期想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=125円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

Anritsu envision:ensure

12

Financial Results FY2019 3Q
Copyright© ANRITSU

2019年10月30日に開示した2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の業績予想及び1株当たり配当予想について、修正することとしました。

主力の計測事業において、5G関連のモバイル市場向け開発用計測器需要が順調に推移しています。売上高については、特にアジア地域において、5G商用化に向けた開発需要が従来の計画を上回る見込みです。利益面では、第3四半期までの実績を踏まえ、増収効果及び売上原価率の改善が見込まれることから、売上高及び営業利益を上方修正します。

PQA事業においては、食品市場の品質保証プロセスの改善強化、自動化、省力化に向けた設備投資需要は堅調であるものの、顧客先での受入検収期間が長期化した影響等により期初の計画を下回る見込みのため、売上高及び営業利益を下方修正します。

その他の事業につきましては、デバイス事業の業績が期初の計画を上回る見込みのため、営業利益を上方修正します。

税引前利益、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、営業利益の修正を織り込んでそれぞれ修正しております。

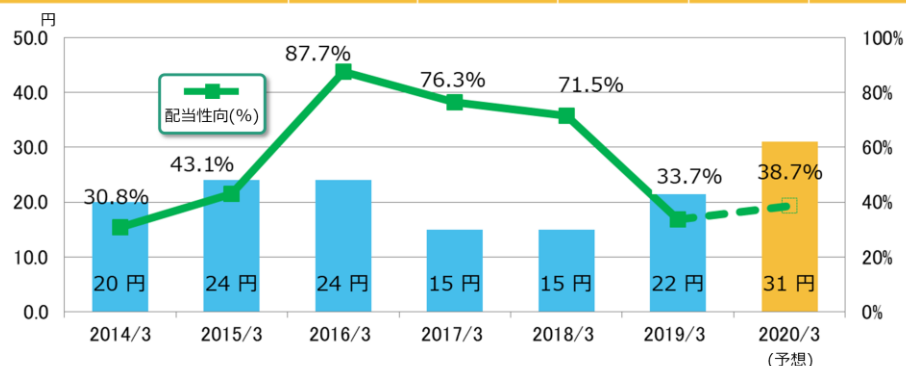
Ⅲ - 2. 配当予想について

年間配当
増配

22円 → 31円

(中間配当11円、期末配当20円)

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE	ROE
2020年3月期 (予想)	31円	110億円	38.7%	4.6%	12%
2019年3月期 (実績)	22円	90億円	33.7%	3.7%	10.9%



Anritsu envision:ensure

13

Financial Results FY2019 3Q
Copyright© ANRITSU

業績予想の上方修正に伴い、配当は、2019年4月25日の2020年3月期業績予想発表時に公表した1株あたり年間22円(うち中間配当11円)から9円増額し、1株あたり年間31円(うち中間配当11円、期末配当20円)に増額いたします。

なお、ROEは12%となる見込みです。

[配当方針]

当社は、株主の皆様に対する利益還元について、連結業績に応じるとともに、総還元性向を勘案した利益処分を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当については、連結当期利益の上昇に応じて、親会社所有者帰属持分配当率(DOE: Dividend On Equity)を上げることを基本にしつつ、連結配当性向30%以上を目標としており、株主総会決議もしくは取締役会決議により、期末配当及び中間配当の年2回の配当を行う方針です。

IV. 連結子会社の吸収合併（簡易合併・略式合併）

当社は、利益ある持続的成長に向けた新たな取組み「Beyond 2020」を始動させ、グループ一丸となって経営理念・経営ビジョンの実現に邁進する企業へのトランスフォーメーションを進めております。

当社グループの活性化及び人財力強化を図り、複雑かつ変化し続ける市場環境へ対応し新たなビジネスの創出に挑む新体制を構築するため、当社の完全子会社であるアンリツネットワークス株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社及び株式会社アンリツプロアソシエを吸収合併することといたしました。

合併予定日(効力発生日) 2020年4月1日（予定）

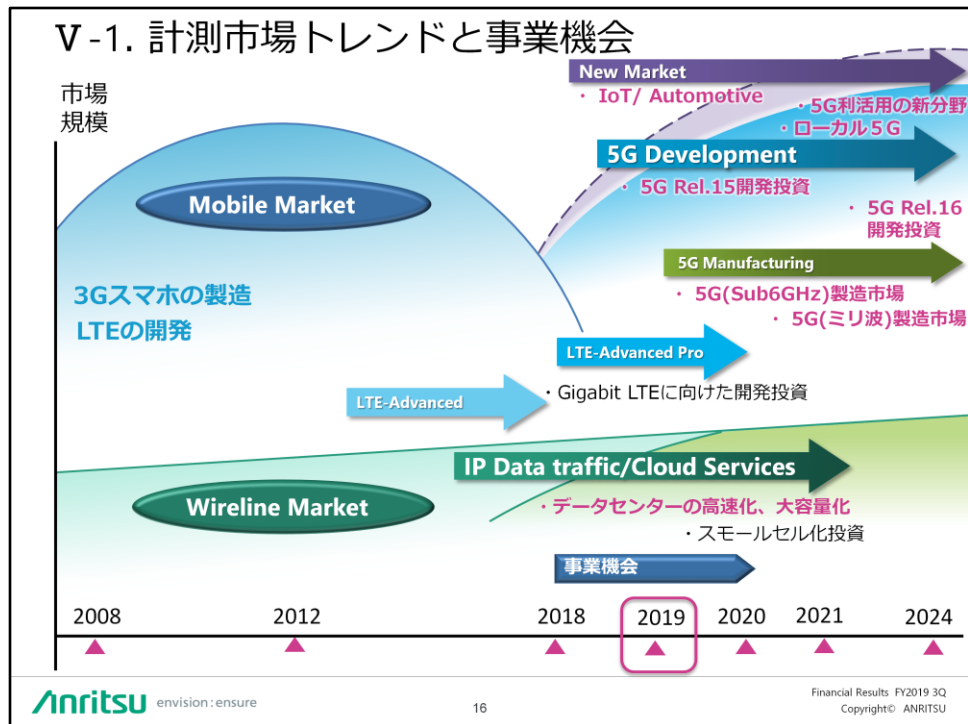
（ノート部記載なし）

V. 5Gサービスのロードマップと 当社の取組について

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長
グループCEO

(ノート部記載なし)

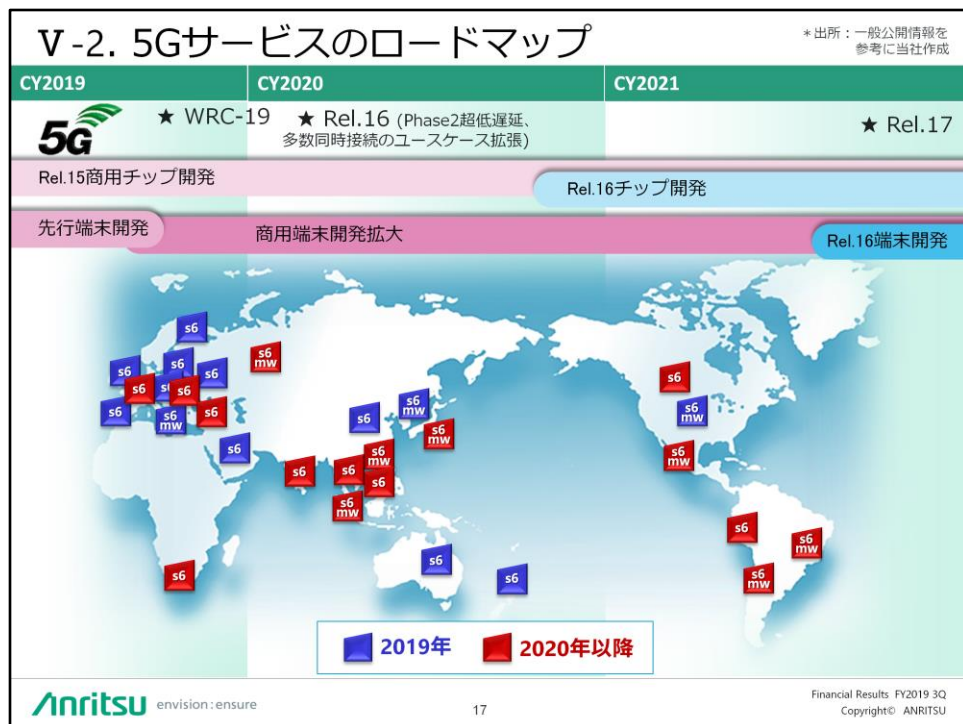


モバイル計測市場は、LTE関連およびスマートフォン製造用途が縮減する一方、5Gの初期開発投資を成長ドライバーとして、徐々に拡大することが予測されます。

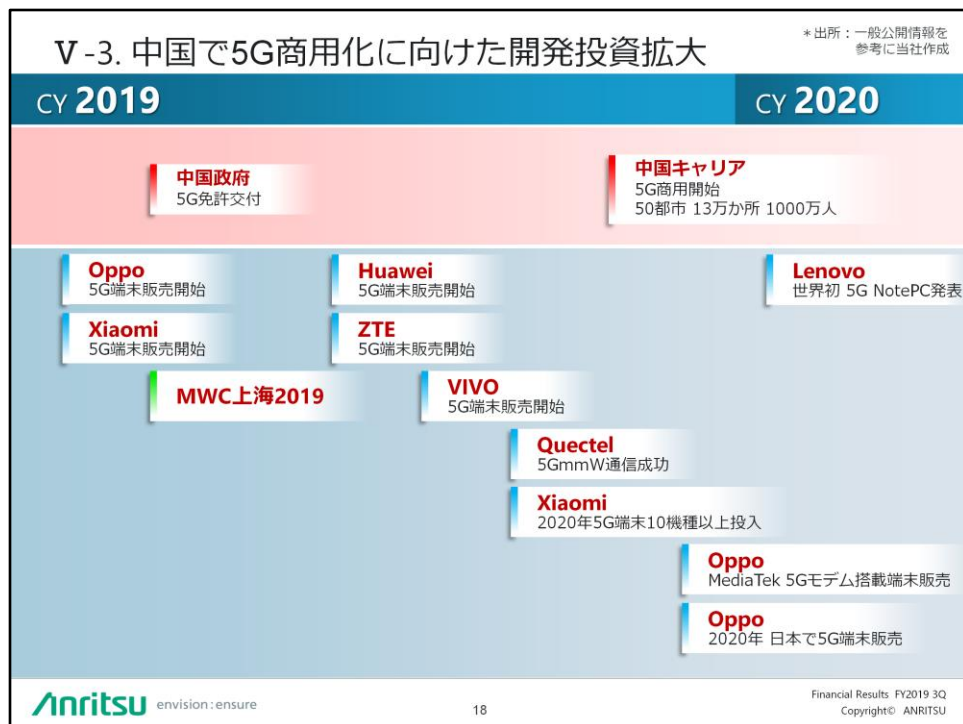
LTEサイクルでのモバイル市場のピークは2012年でしたが、5Gサイクルでは2023年～2024年頃であると考えております。

5Gではアジアの5G関連ベンダーの開発投資が想定より大きく、5Gサイクルにおけるモバイル計測市場規模(スマートフォン関連)は、LTEサイクルのピーク時の9割程度になると考えております。

また、ローカル5Gや5Gの利活用分野であるIoTや自動車関連の市場が加われば、モバイル計測市場規模は、LTEのピーク時を超える可能性があると考えております。



2019年アメリカ、韓国、欧州各国そして中国で5Gのサービスが始まりました。2020年には、カナダ、メキシコ、南米、東南アジア等でも5G Sub6 サービスが開始され、世界の主要な都市で広く利用可能となります。そして同じく2020年には日本、韓国、ロシアで5Gミリ波サービスが展開される予定です。2021年以降、5G Sub6サービス開始国は、さらに拡充し、また、5G ミリ波サービス開始国の拡充も期待されています。



(ノート部記載なし)



現時点での5G端末の開発・製造プロセスは、量産試験のフェーズに入っており、5G Sub6の需要が立上ってきました。



(ノート部記載なし)